

<見学テーマ>

軍郷習志野の史跡を訪ねる—大久保から実籾へ—

<日本の軍隊はどう変わっていったか>



日時 2016年11月5日(土)10:00~16:00  
 集合場所 京成大久保駅  
 資料代 500円(会員無料)

<現在も残るトーチカ>

<見学場所>

午前	午後
①京成大久保駅 10:00集合	⑥習志野原トーチカ
②騎兵14連隊・戦車連隊跡	⑦鉄道連隊演習線跡
③八幡公園・騎兵旅団司令部跡	⑧神田隊駐教記念碑
④騎兵16連隊・習志野学校跡	⑨囲壁(満州風建造物)
⑤<昼食・休憩>	⑩高津廠舎跡
 <p>&lt;満州風建造物&gt;</p>	⑪ドイツ兵捕虜オーケストラ碑
	⑫陸軍習志野「支鮮人」収容所跡
	⑬京成実籾駅 16:00解散

江戸時代に放牧場であった大和田原は、1873(明治6)年に近衛兵2800名による大演習が行われたのを機に「習志野原」と名付けられた。習志野原に隣接する大久保地域では、日清戦争後、三山・大久保・実籾などの7か村の民有地が買い上げられて、第13・第14・第15・第16と4つの騎兵連隊が新設された。日露戦争で活躍した騎兵連隊の跡には、第1次世界大戦後、戦車連隊や毒ガス学校ができて、軍郷習志野の景観を一変させていった。



一方、実籾地域には、日露戦争のロシア兵捕虜15,000人を収容する捕虜収容所(高津廠舎)が建設された。第1次世界大戦中は、ここにドイツ兵捕虜を収容し、サッカー場・テニスコート・音楽室などを整えて国際規約を遵守した。しかし、関東大震災では、被災者とともに収用された朝鮮人・中国人を虐殺する事件が起きている。軍郷習志野の史跡を訪ね、軍隊の変化を通して近代の日本を考えてみたい。

<囲壁の一部>